地方凡例録

酉

ワ3
6425
10

門 73
號 6425
巻 10

地方凡例録九之巻下　目録は上巻ニ有

一 普請方之内橋類之事

附リ 人足扶持方并出方請人足定法之事

一 土橋

橋長短并川之遠近ニ應し材極有之土橋之仕方大小ニよらす仕方同し橋杭打方石附ニ不及根入元杭材木ニ而作置込むも有土橋之杭を打込ニハ根を据方横木を十文字ニ結付砂利土俵を仕掛る不残相結付其上ニ人足何程人も掛ケて突込させ置ハ丈夫ニ成

或ハ丈夫成縄を張て方々より川浪を防き也ハ怪我なきもの
なり又小橋之杭ハ大概立込也（埋杭の頭迄水に浸すハ朽ず入口[illegible]として其上ハ[illegible]の木[illegible]）
（外に反る[illegible]也）
杭ハ矢ニ而打かゝる故杭を半分程打込又[illegible]川を[illegible]也
入る[illegible]地形[illegible]下ケ又[illegible]川底へ入打
夫ゟ夫を幅三間より上の橋ハ柱ハ[illegible]間[illegible]ハ二本
建[illegible]間[illegible]して大川ニ而ハ[illegible]柱木[illegible]
[illegible]川も橋杭の川上ニ[illegible]大[illegible]杭ニ[illegible]丈
夫として[illegible]柱を[illegible]橋ニ[illegible]
橋杭を常[illegible]柱ニ[illegible]て[illegible]桁も橋幅[illegible]

[illegible]本[illegible]ヘ[illegible]橋[illegible]三[illegible]
[illegible]の[illegible]間[illegible]大橋[illegible]
[illegible]小橋ハ[illegible]間数長[illegible]橋[illegible]桁[illegible]
[illegible]三[illegible]大[illegible]橋[illegible]
[illegible]ニ[illegible]切組中ニ[illegible]柱[illegible]
[illegible]一方[illegible]の方[illegible]大[illegible]して[illegible]の方[illegible]違[illegible]
割込柱ニ[illegible]云ハ[illegible]違ニ切違[illegible]中を
[illegible]當時[illegible]用[illegible]云ハ[illegible]桁の先
切[illegible]入違[illegible]して桁を
桁[illegible]合[illegible]上[illegible]違[illegible]

あらむ所は其の橋も梁の上に常なる柱に支ふる梁の上に桁
を川に出す事なれば梁より南に柱の根なる故洪水の時も
桁までも流れ込む事なければ洪水の時桁動
く事なしたとへ少し宛傾く事あり共能出
水ある時は水にても崩し流るゝ事なく渡る人は陸
あるが如く八人なる道路に附る如くの事なり其の所は天下
無比の橋なり然れども橋桁を据る事は川の流
矢早く其の中にて両方に打付て其の能く通し
出来る利を得る事少く故に甚だ強き事にて小口より
望見たる物の如く目立たし然れども桁の上

無之事然るに其の上にも其の厚み不足の桁なる
候て然能く切無之由あり其の曲りあるべき所の方を避ては
橋弱し通る時は無之所は通るべし通るには橋杭根入深
く丈夫なる杭を用ひ其の柱を一通り立て横渡しに
間数長短は其の桁の長さに随ひてへし其の大坂の橋は一通り
よろし又橋を造るにも次第に仕上げ橋杭の頭に手付梁
掛仕込み桁を掛け其の梁の上に川幅の橋の大小により
三通りも川幅の長さ口に手形の其の方角を定めへ
其の上に添ゆる桁を組む事あるべし其の梁よりも柱に後置
遣ひ添ゆる桁より梁に紫竹等を渡し遣ひた

渡シ大橋ニも町ニ入口抔ニ者入念候ニ付欄干ニても有之候
是ハ馬踏の添杭ニ比を刻候欄杭の下ゟ貫弐本通し上ハ
笠木を仕込ミ中ニ而束を組合候ニ付欄干と唱是ハ擬宝珠ニ
男柱袖柱を仕込ミ候して束ニ而欄干を出し候ニ付男柱袖
柱中束なとも称し是ハ大橋ニ有之候欄男柱ハ
なし橋台杭ニも石垣抔ニ而柱ハ経木
石垣ニ組ニ仕立候ニ付経木ニ而丈夫ニ作込ミ候
其道ニ組立候所臨時ニ御条理也して門ニ而ハ大ニ而
諸ニ付是又山川ニ而高欄橋台石垣ニ是ハ杭ニ而岩
の出入を切揃ニ候し而ニ岩の添ニ杭を東根の真中岩ニ
揃せ候ニ付是ニ而ハ橋の下抔川渕掛挿ひ橋杭の所ゟ
流ニ候場所ニ而渕当着ニ而川中ニ蛇籠を沈て渕を当
事も是又若川岸添ニ而ハ出し候渕当着致可然事所
添ニ沼水ニ杭を入是ニ而渕当致候事も是ハ保其ハ色
例ニ川よりなし杭列の大川早川ニ而ハ定ニ事ニ付

一 板橋

板橋大小長短ニ而欄干橋脇ニ付是ニ而道足不遠ひ
是目論見ニ而是迄之普請ニ而ハ追ひ仕立候所ニしてハ
出来候所ニ付尤橋ニ是之ニ而渕を積り其出来ニ而ハ不宜
候ニ付てハ橋杭も長く入丈ニ推候所ニ付間も長く

久しき迄の甚見もなき所殊に水道路にても強く波しぶき白浪
倒るゝ八尋となり東西板摩り平て橋弱し是程にても参
らす其上に大坂半寸九寸白浪となるへし江戸の事を橋板を
八寸白の中勿論山川之水ほど出る所の橋ハ少し
白浪にて至り方へ白石に手向し事橋板の上に浮水宗橋流失
する橋なり水道迄を大坂への事ぶ流れの事に至る
あらそひハ右事の三川ゝに板子を出て乗る事を住
公用にて其事場所川の板子木を安書門より取出して
然れ新規の仕様板ハせ安筆之御遣橋木ハ入用木
品寸者を調候御ふり積に入札申附候事之事にハ

取直後大手を積り立さき任せ無宅へし若入札申之人無之ハ
自然之手積るへし杭木小板橋杭之外大坂之橋ハ梅上有
御入へし其入念ては橋板を相用し白木ハ御用ひ橋木
用ゆるハ事凡大手其上に極板杭木杉松用ひて右小板橋ハ
板杭末之手任之ゝ江戸大坂の橋之通半分ほと　全列
國時橋之列右両橋江列等多橋并ニ板列凡其通
任之取扱ふ事後臨も之間任口間任返し橋杭ハ凡
寸間九尺まてハ来口より手て候之人まで寸　梁木ハ之儀
より之儀人其の任我板名手も割之壱半寸以上之事ハ通異
是唯し積るへし入用之事之凡橋板指入之事も

廻込束方も大橋と同し平桁束ニ至ハ大橋と上下
耳[側]の橋を左[側]と又板[側]ニ入ハ笠木迄ニ近ル
平桁其の間ニ笠木迄ニ十文字平ニ入ル十文字擬宝
橋の法ニ成ルへく梁平橋桁の上ニ仕込ミ彫込みを
入梁の上ニ行ら法方を左橋の外ニ出シ欄込板ヲ
裏板の外ニも左右男柱の外を廻し込ミニする男柱より前ニ
平桁迄入ル欄ニ[側]組木ある事にて上ハ笠木ニ仕込
下ハ地覆ニ入て彫込ミ彫へ仕込四方ニ束組木の中ニ入
笠木ニ至擬宝珠として組木の上ニ出して[臨]ニ覆
右[側]男柱ニ仕込擬宝珠の欄干を乃ニ至る如く

此又男柱神柱左右柱之地覆ニ組木彫込ミ彫ニ入[金]
組立ニ至ニ地覆木の下板附の所ニ水留し前より廻を
角ニ丸巾板ヲ開四方ニ将基形にして男柱神柱乃
形ニ取ニ付せ大ノ尾形法ニ而平角る兼渡大臺束ハ杉木橋
裏の上ニ擬ニ門柳下大臺ニ至テハ平等寸の法形を
寺ふ板法形乃長さ之幅平寸厚平分組木ニも擬て
[illegible]近し組[illegible]
幅[illegible]神柱[illegible]
くニ男柱[illegible]
以擬て[illegible]

其上ゟ追添敷板を柳繋致し候板ニ而程ニ而渡打
限り御座候左右ニ敷板并一躰ニ欄干付高欄八尺ニ而候
橋台閾板并ニ橋下一面左右木口并板渋塗抱柱高欄
至迄柱居候松木抱柱の根ニ仕込候の方筋違柱高居
中候橋入用諸候見積候者相成候と仕用ニ而用候角
物ニ而申ニ普請之儀ニ而して直し候積り之候と存候居し
二尺五寸を附る打渡し板の城門ニ而渡目ニ存候を[illegible]
積る渡而之候普請候之候書ニ存し

但[illegible]長[illegible]候方の[illegible]し

て[illegible]

[illegible]人角[illegible]九と

[illegible]

一 小板橋

長[illegible]小板橋[illegible]用

[illegible]

[illegible]入[illegible]

[illegible]

[illegible]切方比

高欄束彫物欄木二本入ニ而欄の代りニ成る男柱橋ゟ西
乳堀込小橋ニ而神楽中拝木ニ有橋ゟ屋根板門杭架木
加世南御宮ゟ方へ橋を渡る事ニ成る也右源ノ遠藤ともひ
方門ゟ探索致シ本の事ニ成る小石橋の事ニ付御小普請組木ニて
小石川辺ニ付候事ニ有之御目付方支配杭松竹付之代料
之事ニ成る小石川辺之御木ニ而橋を普請ハ根太の差切之引渡す事
長之間ニ悉ハ八寸之厚之弐寸の板を成敷板廿貫切ニ普請為木口ニ立
壱寸ニ本廿根太長当目之二寸入八寸ニ付二本ニ此角物も
以下杭木ニ長板ニ並ひ長当尚木ニも三尺ニ而木ニも積り差切之
隋末口尺ニ入（右ハ長之間ニ壱寸之尺ニハ壱寸之寸ニ定）目当致此根太ニ本杭之積り

一 小石橋

小普請組同組頭帳ニ此ハ橋杭梁柵共木ハ尾木取ハ松丸二本
差之小箇笠切ニ依テ二右面板ニ而欄付ニ木ハ角ニ而渡る八寸方小
杭木ニ二本ニ同組へ入る手色を杭定ニ付る百杭ニ之ハ小杭五寸
有り蓋板ハ方板小杭木ニ而付之方所ニ此目色を杭ニ渡る
尺石積ハ小杭木ニ先手本ニ橋之方ニ角物ニ而付之る
但右積の件方尾木ニ尺として何ニ而何ニ而何も壱寸も
三尺ニ此色を杭の之使小尺之入角本杭之入ニ而杭
長之寸ニ書ニ而出来何ニ付何も何尤之出ニ之

往還ニ而も荒川ニ而も長さ三四間ニ候ハヽ石橋石組ニ而仕立有之
所ハ石之柱石七寸角長サ川丈ケ之通り横木ヲ渡シ石并ニ左
右へ差出石を出張しめ柱之根石ハ四ツ蔵切組
石橋ニ有之候也川を掛渡シ候ハヽ宜しく架石並ニ之幅
八寸厚サ四寸其中へ架渡シ柱の上ニ而切通シ渡し掛
石同寸ニ而長サハ橋長ニ造り其上ニもまた橋ニ起し
並ニ長サニ而ヲ掛ケ有之石垣凡其柱ニ組成候也幅
壱尺八寸厚サ七寸位架石の上橋を掛渡石ハ高石の通り
川掛橋の地面木の組之橋は石垣材ハ切石ヲ二尺ニ付
壱尺五寸位にして其表面ハ割石成ヲ架樹木石出

往還ニ而は都而切合セ節々ニ組ニ仕有之石ヲ積ミ九
切石継手摺合セ仕立有之人石垣八寸之深サ壱尺ニ寸ニ
仕立積ハ掛渡シ石橋其ハ川幅七寸ニ而掛渡シ相成ハ間内
堅く柱石之間川之上手之架石ヲ川下之上ニ而石垣ニ
成ル中ハ架石を打合セ掛渡シ之上ニ有之石橋も神社地之欄
干付石橋掛し有之も多く往還之方ニ而敷き中ニ而き
入用無之相見へ申し

一
剣橋
其ハ石川の荒川之流水の其ハ大石も流入山之上ニ而

大手桜様ニけゐる源平盛衰ニ橋桁虚ニて所々ニ座候又ハ涼
菅川ニ沿来小川ニ座近くし桁橋ニて桁虚荒ノ場所ニ
至る橋之甲州郡内猿橋大月橋ニ列吉野川白鳥町
裏下野ノ年橋野ノ橋原町中ニ条ニ間佐渡川の橋岩門
ニても庄橋沼田ニ又ハ京川ニ逃貝橋ニ亦刎刎木所
く之山川ニ架ニ両佐ニ方ハ右橋を巌石を築きハ岩石く
刎木を差込又左右ニハ石垣を築刎木の左右差込
有るものハ石垣を築きハ橋を差渡しして刎木の
左右ニ差込ませ有して其上を桁梁を横ニ引く橋
幅長さを其川ニ応し凡幅ニ応ニより長さハ刎木ニ而も

有る刎木ハ刎木長サ何尺末口何寸以上の木ニ而も
よしして刎木ニ並へ凡ニ有る積石垣ニ差込刎木の先をく
控木ニ而右ニ差入としして横ニ引其上ニ乗の刎長サ二間余
末口ハ何寸ともニ凡ニ方ニ有る積ニ差込先ニ又控木ニ有
ニて刎長サ何寸積佐方ハ何其刎木の先を梁ニ有
有る方左右ニ有て刎出ハ刎長サ何ニても橋ニ有ても
無程ニ而ハ刎木ニ而も左右両方の梁を梁ニ渡し又幅
二間程の橋を何寸渡し刎木の上ニ敷板を渡し刎木
ニて白繩ニ附し左割り之を縄ニて結ひ大手を渡しハ
かしハ白繩ニ結ひ川幅広く刎木を渡しハ刎ニても

随分先々大概ニ刎ニ可済 杭ハ積ニ至へし 刎板ニ而見積
橋弱し 刎ハ上ニ蔵ニ而相 男柱中桁等ハ上之の拵
也是の板橋も難平ニ而し 深き川ホハ至而川中
広く在之ハ刎橋ニの義不能杭ニ而見分 是又ホハ一宮の見へ
無し 中桁ハ難遠方ニ而在之ハ刎橋も主ニ而急川の上
又信州川ホハ若川ニ而無し 石狩川ニ而大水ニ而在ハ石積ホ
ホ流ニも出橋杭ニ流難之平中ニ在ハ少く深もある
杭の流さ 川ニ有川幅之広く無之在ハ 川ハ主平杭
在入ホニ而刎橋ニ而川刎刎ニ寄之杭多余ニ而も中
杭掛ニ至るニ付橋両ニ無之 是貝橋の刎橋ハ難杭之間し

其手当ニ而相懸り候ハ、至而少く候ニ付而も修覆之出入用
嵩も有之候而ニ承知し 右中桁の仕組杭刎丈夫ニ致
候ハヽ大水ニ而も杭流さ之桁幅ハ橋幅を取し幅之間の
橋ニ而ハ桁幅ニ而余り広き所ハ大水候得共して渡桁ニ
仕候る所の桁を遠く致候下の方桁得共して丈夫
堀込之義ホも大きく丈夫ニ致候得共是川下の方桁
第入ニして杭も是大石候積り相成れハ大水ニ而
桁流され中桁丈夫ニ而して刎橋流も橋廣る相
中桁の川ニ而為水切鉾桁建之間桁候見候る橋九尺
位ニ仕之川上ニ而間の間を桁の内ニ水切等大手候ニ付

廣丈深く掘入堤之方に如此蛇籠入にして夫る堤水をさへ
川之方へ大石之根まて流し出し水切より三角枠を立て
中枠を居へ其外柳の下に流して置き猶又水切より出し付
置は中枠之大石之根まて流出し置時は急中枠破損も不致
併中枠も荒川抔の強く甲州猿橋の様成川は破
成候間刎橋ニ可致し　山奥の荒川往来せて叶はさる
場所は刎橋を架る事也

但蛇籠枠の法は前に記しめ三角之並に置は三方より中に
少し長く繰し渡して三枠を差込
大きさ大抵三角蛇籠所に寄置は三方尺計り位に置き

此間は方練目繰して中堤を差挟ハ三角之法に立て
繰して其堤を張り合せ差込之の法は長さ人足方之
角之まては堤之内に合せ之を居て差込三角之法之

一 刎橋

猿橋とも云

附り 一 籠渡之事

是は大廻之所之山家にし甲州猿橋川の上に架ル刎橋之儀
列之通濃州郡之郷の山奥之荒川橋広く廣ハ巌壁
之所自然も有之十分ハ夕方の深さ刎橋を架ル事も
不成所之直径之まてハ刎橋之仕様ハ度々人の往来成る
載せ候も如く合せ之大ハ渡す事に叶して荒川の上に架

岩開分岩開ハ又八大木本に紫有為例に至る中路西に往
として刻源と子と子の中百七千径として其度路を路
子のやく凡木の丈まめ浅動ちとこる旅と落る絶かしこ
其大度曼の絡残あるて渋り中の度絡と永く紫有よ
翔として往来せる長径絡接流中極を汎と絡せるに
接きふりしく云展ひ源く西訓して以向源をさき積之
又極山中深云と叢源し進む形る岩の云残就ると向の岩
よりて日本の岩を形召来の度絡を洗其絡と叢を渡
叢よりて岩開に絡を渡りて叢に泉り岩開渡くる
絹残すまち二そろの岩々接そく度絡に絡ひかり其乎

汲汲と又向ふとある凡向の岩開よりて叢を有なる絡残
自ら汲をやまとくる事之今旅の岩向に山細まてしす
石叢渡に叢をまもお家りさ之しても勿り波大よし
識き而径訓ふるき進ミるとり中のも各径往来云る李

一 桐道　　桜芸桐橋左云

芸云極山中とえ千本ある桟中華と而蜀の桟道探に其之
上ハ大山巌石に而道化てよふて之本下ハ岩川にゆかくて
山循をこ通して、而と往来云し所と桐道として前
乃左迄てして桟を来大に万ハ山根の岩石をまかせ式ハ岩
石に宮残形望まして其を汲形を節して生来来

一
廣生繕普請并式拵添差繕川〻の方ハ尾張等より手摺を
附ケ往来ニ而新キ土俵切ニ而少障ニ寄ニ而もなと往来
山の方堤の両脇ハ川の方ニ流出ニ而も有之岩桟桟梁
梱並之丈夫ニ致シ置候ハ土手等を置ハ飛石等の岩
底ニ流入人命ニ拘る事故心を配し場所の普請ハ入用
少し省略なく猶又念入吟味して丈夫ニ仕立可申事

一
右川除用水普請荒堀致し杭木等取積り方并普請
所形を絵図ニして其外委しく方を記し此普請出来之
請書并川除用水普請堤式并水の請書式ニ而可致へし
右之用水普請人足出方之事ハ定之田畑石高に応し人足ニ而村役人

荒地之儀ハ持主手を付度候ニ付中ニ而も田畑ニ相応の高ニ
之より普請ニ付百姓人足ハ石高人足百姓役ニ応し普請の品ニ
よりて八分人足も公儀入用之持主方手入等ニ而も年来
及用水ハ自普請所ニ而も公儀入用之代川除ニ而も古来ハ請負
入用ニてもしも　然とも先年より公儀ニ而も皆御料ニ而も
など知行所之年中請負ニ而も自普請ニ而も知行所江
之上吟味仕役井堰堤等ニ而も用水川除用水等入用ニ而も
此宮請并極之事ニ而も公儀入用の方荒所并

一　村高石
高役人材役人足

一　門
高役人ニ而役持百姓人足
但壱人一日ニ米何合宛ニ而

一　右四百石百人之外不残　銘々米人足
但壱人ニ付一日ニ米壱升宛

右之者共国ニ而引取申候而夫ゟ相済候者之事
并ニ七十五日之受国ニ而支配御伝書出入場所迄ハ
御代官ゟ之出役之節ニ書出之番人番所迄ハ一季ニ年十両
御伝書出番所ニ而正月秋番所ハ何月迄之番所ハ七月書上
之通年中出役之御用番ニ而近年ハ出入用出番所之内
も出役之儀ニ而も無之候出役書ハ番所并ニ
之内役割之法ニ而出役書ハ年中入用ハ村方ゟ
之差出番所法之

一　杭木之義長九尺末口三寸ゟ五寸迄何ニ而も村役之差図
木ニ而も末口二寸ゟ壱寸迄ニ而も代米ニ而末口二寸ゟ以下
之ハ長九尺以下之代米ニ而法之竹縄明俵等迄差出し
諸色ハ何ニ而も代米ニ而差出や

一　右九人足之法
壱町三人
壱町半四人
弐町五人
弐町半六人
壱里程ヨリ三町七人
内壱人ハ献九郎人ハ右持候之事

三町半　八人
四町　九人
四町半　拾人
五町　拾壱人
拾町　弐拾壱人
但郷中壱坪附候而壱人ニて壱荷宛持運候得ハ壱町ニ付弐人
宛壱歩ニ付町数遠近ニ應し　右割合ニ而壱町ニ弐人宛ニ積り
右請取壱石ニ付壱人宛

一　石取人足之定法
壱町　四人
内　壱人　石拾ひ
　　三人　石運ひ候分

壱町半　五人半
弐町　七人
石壱坪ニ付
弐町半　八人半
三町　拾人
三町半　拾壱人半
四町　拾三人
四町半　拾四人半
五町　拾六人
拾町　三拾壱人
但郷中壱坪之石拾ひ壱人ニ而壱町持運ひ三人ニて町数

壱通之通し割合右之外

一 其夜人足定法

壱町 七人

壱町半 八人

弐町 九人 壱町之増 廿壱人 半町之増

弐町半 拾人

三町 拾壱人 長壱人 増半町ニ付

三町半 拾弐人

四町 拾三人

四町半 拾四人

内 少々人足壱切 持運候事

五町 拾五人

拾町 弐拾五人

但壱籠壱町五人ニて壱町増毎ニ弐人宛町数壱之通し人足

ニ而右之割合ニ而積る右之外壱籠壱挺橋迄壱之丈ケ

場所ニ而壱ケ所八割除壱切増之人足ヲ取ル之度々

有之町数之人足之達壱切増之外ニ目録之外ニ而

人足之ニ合ニ壱方分壱之町時ハ壱夜積り壱人足

壱人割合ニ而別段壱之九人宛積るへし

一 大坂後人足定法

幅 壱間 壱尺

源 壱間 壱尺 壱人

幅 八尺五寸二間 深 四尺 弐人

幅 二間半尺五寸五間 深 四尺 三人半

幅 五間半尺五寸七間 深 四尺 四人

幅 十間半尺五寸拾間 深 四尺 五人

幅 三尺五寸三間 深 弐尺五寸 弐人

幅 九尺五寸弐間 深 四尺 三人半

幅 三間半尺五寸五間 深 四尺 四人

幅 五間半尺五寸七間 深 四尺 五人

幅 十間半尺五寸拾間 深 四尺 六人

但右捨場ゟ場掃左右打散候ハヽ壱町ニ付浚人足廿人

〃し土捨場迄運ひ候ハヽ町数ニ応し土持壱町ニ付壱人ツヽ人足

弐人宛可加

一 石砂利浚人足定法

幅 三尺五寸三間 深 弐尺五寸 弐人

幅 九尺五寸弐間 右同断 三人

幅 三間半尺五寸五間 右同断 四人

幅 五間半尺五寸七間 右同断 五人

幅 十間半尺五寸拾間 右同断 六人半

幅 三尺五寸三間 深 弐尺五寸 三人

幅 八尺五寸二間 右同断 四人半

艜　長五間迄　右同断　五人

艜　長四間迄　右同断　三人半

艜　拾壱間ゟ　右同断　七人

但右船利捨場右同断之事ニ而候得共右船人足三人宛之事

積り可申候

一　酒井渡人足定法

深川　壱人宛　壱人

同　壱間半迄　弐人

同　三間半ゟ　三人

但場所ニ寄広狭有之候ニ付横幅猶極無拾場右同断之事ニ而候

以上持人足之儀者場所ニ依人足可申付候若淀ニ至之場所ニ而之

其淀之通候人足渡し可申候又淀之場所八尋之程

相対ニ而ちかき難渋無之様可致候

一　船手人足定法

長壱間迄　未口二寸　壱人　但船板

長八尺迄　未口四寸　壱人　但船木之内但加子船ニ而壱人弐人ニ而
又ハ二人ニ而も船手ニ而

長四間　未口三寸　壱人　但何村船木

長五間　未口四寸　壱人　但何村何方之儀

長六間　未口五寸　弐人　但何村

長三間半　未口四寸　壱人　但弐人

長弐間　末口四寸　壱本ニ付壱人ツヽ

長弐間半　末口五寸　壱本ニ付壱人半ツヽ

長三間　末口六寸　壱本ニ付弐人ツヽ

但場所泥土深浅ニ寄土性之堅和ニ
より人足ニ増減有之へし　右者末口四寸以上之寸
三尺ニ而記ス　杭木目之法者書面之通末口一尺之杭ニ
而成る場所ニ而者杭若堅石等有之砂利地ニ而者末口四寸
以上ハ杭木ニ込て八分通ニ而壱本打込ニ付寄込之積り可致

一
橋南杭寄込人足定法

長弐間半　五寸角　根入五尺　壱本ニ付壱人ツヽ

長三間半　六寸角　根入六尺五寸　壱本ニ八人ツヽ

長四間半　七寸角　根入七尺　壱本ニ拾人ツヽ

長五間半　八寸角　根入九尺　壱本ニ拾二人ツヽ

但人足之義者土性右之割合ヲ以積り可申候　尤慶
土性之堅和右ニ准ス

一
橋尾杭寄込人足定法

長四間　末口五寸　根入四尺　壱本ニ二人ツヽ

長三間半　末口五寸　同五尺　同四人ツヽ

長三間　末口六寸　同六尺　同八人ツヽ

長五間半　末口七寸　同七尺　同拾人ツヽ

長（弐間半分／六間迄）　末口八九寸　同八九尺　同杭弐人宛

但右同断

一　橋（拙設／板有）一式人足定法

長（弐間半分／三間迄）　幅（八尺／六尺迄）　橋弐十坪　四人掛り

長（三間半分／五間迄）　幅（弐間半分／弐間迄）　同断　五人掛り

長（五間半分／七間迄）　幅（三間半分／弐間迄）　同断　六人掛り

長（七間半分／拾間迄）　幅（三間半分／四間迄）　同断　七人掛り

但右橋之悪危之節人足ハ右定之数之外ニ而書面之通り人足掛り申
積ニ人ハし　橋杭打込人足も別段ニ可

一　杭木根伐人足定法

末口弐寸　　壱人宛　同杭弐拾本代

同三寸　　同　杭拾五本代

同四寸　　同　杭拾本代

同五寸　　同　杭七本代

同六寸　　同　八本代

同七寸　　同　六本代

同八寸　　同　四本代

長（六尺分／八尺迄）同九寸　　同　同断

同壱尺　　同　三本壱分代

同壱尺壱寸　　同　弐本三分代

一 壱尺八寸
一 壱尺七寸
一 壱尺六寸
一 壱尺五寸

末口弐寸
一 三寸
一 四寸
一 五寸
一 六寸

一 弐分弐厘代
一 壱分九厘代
一 壱分七厘代
一 壱分五厘代

壱本
一 拾壱分代
一 拾九分代
一 拾壱分五厘代
一 九分代
一 七分代

一 七寸
一 八寸
長サ八分 壱尺壱寸迄
一 九寸
一 壱尺
一 壱尺壱寸
一 壱尺弐寸
一 壱尺三寸
一 壱尺四寸
一 壱尺五寸

一 五分代
一 四分代
一 三分四厘代
一 弐分九厘代
一 弐分四厘代
一 弐分壱厘代
一 壱分八厘代
一 壱分六厘代
一 壱分四厘代

末口弐寸
同三寸
同四寸
同五寸
同六寸
同七寸
同八寸
同九寸
同壱尺
同壱尺弐寸

壱本宛
拾弐匁五分代
同　九匁代
同　五匁代
同　四匁代
同　三匁八分代
同　弐匁六分代
同　弐匁四分代
同　壱匁九分代
同　壱匁七分代
同　壱匁四分代

同壱尺八寸
同壱尺六寸
同壱尺四寸

末口二寸
同三寸
同五寸
同六寸
同七寸

同　壱匁弐分代
同　壱匁壱分代
同　九分代
同　八分代

壱本宛
七匁五分代
同　五匁代
同　四匁五分代
同　三匁五分代
同　弐匁七分代

長崎御用ニ付此寸迄之
同八寸　同　弐匁代
同九寸　同　壱匁八分代
同壱尺　同　壱匁五分代
同壱尺壱寸　同　壱匁三分代
同壱尺弐寸　同　壱匁弐分代
同壱尺三寸　同　壱匁代
同壱尺四寸　同　九分代
同壱尺五寸　同　八分代
末口三寸　壱人宛　七匁代

同四寸　同　五匁弐分代
同五寸　同　四匁代
同六寸　同　三匁三分代
同七寸　同　弐匁弐分代
同八寸　同　弐匁三分代
同九寸　同　壱匁八分代
同壱尺　同　壱匁五分代
同壱尺壱寸　同　壱匁弐分代
同壱尺弐寸　同　壱匁三分代
同壱尺三寸　同　壱匁代

同三十八才
同三十八才
未四十才
同四才
同六才
同十才
同半才
長[illegible]
同九才
同三十八

同 九匁代
同 八匁代
三人有
同 四拾五匁代
同 三拾五匁代
同 四拾八匁代
同 四拾弐匁代
同 弐拾九匁代
同 弐拾六匁代
同 弐拾六匁代

同三十八才
同三十八才
同三十八三才
同三十八才
同三十八才
未四十才
同四才
同六才
同七才

同 壱貫弐匁代
同 壱貫三匁代
同 九匁代
同 八匁代
同 七匁代
三人有
同 三貫匁代
同 弐貫三匁代
同 壱貫九匁代
同 壱貫六匁代

東口八寸
同九寸
長同間分
同尺寸下
同壱尺
同壱尺壱寸
同壱尺弐寸
同壱尺三寸
同壱尺四寸

東口四寸

同 壱両三分代
同 壱両二分代
同 壱両代
同 八分代
同 七分代
同 七分代
同 六分代
同 五分代

三分増
弐両三分代

同五寸
同六寸
同七寸
同八寸
同九寸
長同間中木
同尺之通
同壱尺
同壱尺壱寸
同壱尺弐寸
同壱尺三寸
同壱尺四寸

同 弐両三分代
同 壱両三分代
同 壱両弐分代
同 壱両壱分代
同 壱両代
同 九分代
同 八分代
同 七分代
同 六分代
同 五分代

早稲田大學圖書

末口壱尺八寸　　三人前何ほと成

但長壱丈六尺九寸八分三厘壹寸也　壱人ニ而持成　壱寸ニ付方足三十三坪ニ八分
長延壱寸先壱丈六尺五分　三寸九分八厘五毛
九寸ニ而三尺之ニ而五分之法ニ

二間半延割算ニ而間ニ合ス割間ニ而壱寸割算ニ而持ニ成割間半ニ而壱寸

右ニ割合ニ而九尺六分ニ而持之法者人を持之積ニ而へし　大木ニ而弐

併ニ方尺間取ニ而壱本ニ而大木長殺ニ而及ひ根代人足ニ而積ニ

廿五本之根代人足積ニ而弐十寸木月末口ニ而弐分九尺何人ニ而

壱千九百三十六ニ而除キ　三十三坪三厘ニ而長ニ而壱人ニ而木ハ三十人壱寸ニ而
尺ニ而寸ニ而月ニ而三十三割ニ而小口ニ而長殺ニ而弐寸

長殺ニ而九尺ニ而弐法七九ニ而坪ニ而角ニして三分七九寸

坪数ニ而九寸壱人何ニ而成ニ而除キ人数ニ而割ニ而九寸長殺ニ而二分

一　材木持運人足之法

末口四寸	三本	壱人
同五寸	弐本	壱人
同六寸	六本	五人
同七寸	三本	四人
同八寸	四本	九人
同九寸	三本	八人
同八寸	壱本	三人

末口弐尺之木弐間之長サ壱本ニして末口ニ而弐寸ニ而持之ニ而壱し

末口九寸　四本　拾六人

長弐間半
壱本弐間迄
同　壱尺　弐本　九人

同　壱尺壱寸　壱本　拾壱人

同　壱尺弐寸　壱本　六人

同　壱尺三寸　壱本　七人

同　壱尺四寸　弐本　拾七人

同　壱尺五寸　壱本　拾人

末口三寸　壱本　壱人

同　四寸　壱本　四人

同　五寸　壱本　三人

同　六寸　壱本　四人

同　七寸　壱本　五人

同　八寸　壱本　六人

同　九寸　壱本　八人

長弐間より
弐間半迄
同　壱尺　壱本　九人

同　壱尺壱寸　壱本　拾弐人

同　壱尺弐寸　壱本　拾四人

同　壱尺三寸　壱本　拾弐人

同　壱尺四寸　壱本　拾四人

将

東口三十人番　壱家　拾八人

東口二番　弐家　三人

同四番　弐家　五人

同五番　壱家　四人

同三番　壱家　五人

同十番　弐家　拾三人

同半番　壱家　八人

同九番　壱家　拾人

長弐間半ゟ
小間共三人之

同三十人　壱家　拾三人

拾

同三十人番　壱家　拾五人

同三十人弐番　壱家　拾七人

同三十人三番　壱家　弐拾人

同三十人四番　弐家　弐拾六人

同三十人番　弐家　弐拾三人

東口二番　壱家　三人

同四番　壱家　五人

同五番　壱家　七人

同三番　壱家　九人

長三間ゟ三間半迄

末口七寸　壱本　拾四人
同八寸　壱本　拾五人
同九寸　壱本　拾八人
同壱尺　壱本　弐拾四人
同壱尺壱寸　壱本　弐拾六人
同壱尺弐寸　壱本　三拾人
同壱尺三寸　壱本　三拾五人
同壱尺四寸　壱本　四拾人
同壱尺五寸　壱本　四拾六人

持

長三間半ゟ四間迄

末口四寸　壱本　六人
同五寸　壱本　九人
同六寸　壱本　拾弐人
同七寸　壱本　拾五人
同八寸　壱本　拾九人
同九寸　壱本　弐拾弐人
同壱尺　壱本　弐拾七人
同壱尺壱寸　壱本　三拾弐人
同壱尺弐寸　壱本　三拾七人
同壱尺三寸　壱本　四拾三人

持

東口壱人半　壱本　四挺九人
同壱人半　壱本　五挺五人
東口半　壱本　挺壱人
同弐半　壱本　挺五人
同半　壱本　弐挺人
同壱半　壱本　弐挺五人
同半　壱本　三挺壱人
同乃半　壱本　二挺八人
長 [illegible]
同壱人　壱本　四挺五人

持

同壱人半　壱本　五挺六人
同壱人弐半　壱本　六挺壱人
同壱人三半　壱本　七挺壱人
同壱人半　壱本　八挺人
同壱人半　壱本　九挺壱人
東口半　壱本　挺四人
同弐半　壱本　挺八人
同三半　壱本　弐挺四人
同壱半　壱本　三挺人

長弐間半ゟ三間迄之

木口八寸　壱本　三拾七人
同九寸　壱本　四拾八人
同壱尺　壱本　五拾六人
同壱尺壱寸　壱本　六拾五人
同壱尺弐寸　壱本　七拾五人
同壱尺三寸　壱本　八拾三人
同壱尺四寸　壱本　九拾弐人
同壱尺五寸　壱本　百五人

但持運人足之一日往返之道法ニ而道法壱里之割
ニ而持壱人壱本持ニ而木ハ一日ニ壱人ニ而二本持ニ積り申候

持

右之松杉雑木等之人足代り槻梅樫等之品目不残木
壱本壱人つゝ持之割合ニ而積るへし尤木口壱尺長弐
間壱丈ニ付壱人之処也尤木口ニ而壱尺ニ付弐人
人持も持なる事人ニ而壱尺ニ付壱人七分持ニ而壱人
之事持も有之候ハゝ木ハ右之通り人足代り積るへし

一　右山林木根伐持運人足ハ壱人ニ付壱日七合五勺之割合
法之山番人足之人足ハ前條ニ積るへし尤山林木之
之村方ニ而も山番人足村方ニ而是迄伐来候分ハ根伐
人足ハ同様之分ニ入山林根伐之儀是迄之通持運
人足之半分ニ而根伐人足ハ是迄伐来候人足積り之儀

事之極栗の松木并檜木并時ニ大木御用ニ付八寸迄
定ニ而雑木ニ而も檜木ニ而御用ニ相立候ハヽ八寸目論
見込ニ而可相（不用ニ而松木杉ニ而も代ニ而可申事）

一 角物持運人足壱人ニ付法
長弐間　壱人前壱本　檜八人持
但板類者長短大小等ニ而区々ニ候得共壱本弐人持ニ而八人持ニ積人足
掛り積之へし是ハ板杉等之類檜木ニ積之杉板雑木
の類ハ壱本ニ付八人ニ而掛り候ニ付積候の時ハ壱本ニ付弐本ニ而右
同積ニして杉檜木雑木積之へし尤右ニ而弐本ニ積之

一 雑木根伐持運人足壱人ニ付法

目通り弐尺廻り　壱人　弐尺廻り但掘根共
右同断　壱人　桧木持
長弐間より末口遣　壱本ニ付壱人持　但掘根共

一 唐竹根伐持運人足壱人ニ付法

唐竹弐寸廻り　壱人　百本伐　但掘根共
　　　　　　　壱人　拾本持
目六寸廻り　壱人　百本伐　但右同断
　　　　　　　壱人　六本持

一 明俵縄拵達定法

明俵 但 [illegible] 壱人 [illegible]

縄 但 [illegible] 壱人 [illegible]

一 簾竹拵人足定法

簾 [illegible]

拵人足 壱人 [illegible]

壱ヶ通 [illegible] 同 [illegible]

[illegible] 但 [illegible]

一 土竹定法

平 [illegible] [illegible]

右人足 [illegible]

[illegible]

二而も都合少不足も有之候ハ、印合候者の目論ニ入候得
共知れ兼候而ハ諸事不都合ニ付無據候ハ、其段を
得と見届目論見之所ニ而川下之方ニ而其所之仕来之
又ハ出水の泛濫候ニ水溜水の流出患川之方へ遠ひ
其行ニも泥水之土石積り等有之出水の積り出役之
印由ニて、ハ目論ニ入置し猶又念入て目論むへし

一
川除其外橋渡場新規等人足目方之法

堤折河

長〇間　中勝土弐坪　深目九寸　坪弐三千坪ニ付七歩

長四間　右同断　深目坪五寸　同弐寸五歩

長四間　右同断　深目坪五寸　同弐寸五分五歩
寸

長六間　右同断　同深坪五寸　同壱寸五分五歩

長十間　右同断　同深坪五寸五下　同弐寸五歩

長八間　右同断　同六坪六寸　同弐寸五分五歩

長九間　中勝土弐拾坪　同弐坪九寸　同五寸五歩

長十六人　右同断　同五坪弐寸　同六寸五歩

但堤積之土取所之深目ニ積り、土壱坪ニ付其土取之人足ニ而深

目積り取之深目ニ而可致之

平底河
長四間　中勝土　臨二五坪五寸　深目坪三寸

長守　右門作　門格八本

長守　中脇差　臨三寸 四三寸　門格八本

長守　右門作　門戦格本

但長守磨汀ヲ板ニ後ニ彫リ込ミ汀ニ三本并ニ板ノ刻目
ニ三本汀ノ頭ニ格皮紋并事[illegible]汀[illegible]

家汀
長守上　懸目四百匁　長守　懸目四百八十匁

長守　懸目八匁　長守　懸目五百四十匁

長守　懸目四百三十匁　長守　懸目六百八十匁

長守　懸目七百五十匁

但長守ニ懸汀の大[illegible]書付并[illegible]
格汀ニ守長守ニ板[illegible]候ニ乃テ格[illegible]し

正源

身遠源

長守　正凡三寸 六寸二分　懸目二百格本

長守　右門作　懸目三百格本

長守　正凡三寸 二寸六分　懸目四百格二本

長守　正凡右門作 臨二三寸四寸　懸目五百格本

長守　右門作　懸目六百格二本

長守　正凡右門作 臨二三寸四寸　懸目七百格八本

長三十六尋　網丸数拾弐ヶ所 縮尋目拾

網目九拾目

但シ遠江八斤ノ丸書表ニ成且而網目百拾ニ而遠江

網目銭積ニ六長サ十丈二尺丸の長サ四尋人弐十の寸成株合ニ而之

桁寄網并寄合稼

板網物

長四十八尋　幅三十尋ヨリ三十八尋迄　網元四拾

長四十八尋　幅四十尋　三十五尋　門四拾

長三十八尋　幅四十尋　門四拾八

網目四百十拾目

網目四百五拾目

網目十二百四拾目

[illegible]

板網物

長三十八尋　幅二十尋ヨリ三十尋迄　網元拾弐

長三十八尋　幅三十尋　三十五尋　門拾五

長四十八尋　幅四十尋　門拾八

網目百拾九目

網目二百拾目

網目三百拾八目

[illegible]

板網物

長三十八尋　幅三十尋ヨリ三十五尋迄　網元六

長三十八尋　幅三十尋　三十五尋　門八

長三十八尋　幅三十尋　門十

網目百三拾目

網目四百六拾目

網目二百七拾目

[illegible]

板網物

長二尺八寸　幅二寸四分　厚二分五厘　張穴八　張目四十六程ニ而

長二尺八寸　幅二寸四分　厚二分五厘　門十　張目五十程乃而

長二尺八寸　幅一寸　厚四分　門程ホ　張目四十五程ニ而

大丸頭張ル

長二尺八寸　頭　三寸五分　二寸五分　山下九寸三分　中腰五寸八分　張目十程ニ而

長八寸　頭　三寸五分　二寸五分　山下七寸五分　中腰門形　張目四程乃而

長二尺　頭　三寸五分　山下三寸　中腰五寸五分　張目五程ニ而

小張ル

長一尺　頭　三寸五分　山下三寸　中腰五寸九分　張目二ニ而

長一尺　頭　三寸五分　山下二寸九分　中腰門形　張目四十七

但張物ハ幅厚大小並ニ張ル其外長短之不同有之
張留メハ事ニ有之

兜巾頭張物

内法二寸五分　山下二寸五分　腰中二寸　厚二寸　張穴二寸六　張目十五程八而

内法一寸五分　腰中半　厚二寸　門二寸六　張目二十五程ニ而

内法二寸五分　腰半　厚一寸　門二寸八　張目二十五程ニ而

但格男程外程の張ニ加減せる張物之外遷程ホ八張物ニ
而し兜巾板有之

口包杵張物

内法二寸五分　腰中二寸　厚二寸　張穴程ホ　張目二十五程ニ而

内法壱尺四方　胴中ニテ厚サ弐分　門ハ弐拾ツ　法目ニ而壱坪
但門並ニ外木口ハ包ニ法ル之
右法尺ニ類法目積方ニ壱尺四方之面掛目ニ拾ケ割ニ而何程ニも
是坪合ニ掛合せ積ル也

一　壱石毎ニ目積
壱尺八寸面　拾坪目程
砂門　拾壱坪目程
石門　拾七坪目程
水門　七坪三面目程　但外目ニ拾 平九面ニ而積り
雲岩壱尺八寸面　三寸坪目程

但壱石ハ坪壱尺之代ニ而余ハ寄合ヘシ　中目坪ニ壱尺之壱寸も
壱尺壱寸壱尺泥壱山壱海壱寸ニ違ス之石も望石ニ山石海石岩
石杯見之而坪ニ至目同の違ニ而右石目ハ
壱番法ニ而用ヒ候の壱石ニ掛テ之積ル也ヘシ

一　材木ハ壱寸角ニ而長弐間壱尺八寸角ニ而壱寸ニして四ツ割
ハツニ割ル之ハ幅壱寸至合せ長の尺ニ寸ニ而ハツの法十二
而除けて得ル所にて所を出ス十二の法ニ而ハ弐間ハ壱丈
弐尺ニ而八寸角ハ四寸角掛合せ一ト坪也ニ而長の壱丈弐尺を
ニ八十下坪ニ而十二ニ而除キ八尺の一ツニ而割ル八寸角
坪ニ而十二を八ツの法也

一 通り抜ケ壱人ニ付三通り抜ケ定法之
但長サ壱間幅壱尺ノ板張一通り抜ケニ而厚サ壱寸
通り抜ケ候法ハ凡長サ壱間巾口壱尺ニ而壱寸[illegible]法七
分又ハ六分口壱寸ニ付ニ而手間壱人ニ付[illegible]
九銭余し手間毛ニ長サ六尺余し十二〆[illegible]
ニ而壱寸毛七分下ケ[illegible]ハ[illegible]
壱人ニ而抜ケ候定法ニ而抜ケ壱人ニ付[illegible]之
但色抜ケニ而色例を張付[illegible]定数之入念板之
寸[illegible]之角物竹板割ニ積り張代[illegible]板数
積り[illegible]積り抜ケ割ハ[illegible]

一 松壱人ニ付長サ壱間壱尺角ニ付角数定法之
但竹寸角ニ而幅厚サ合せ長さ十二〆割合ヘし
壱本[illegible]ハ松竹人[illegible]

一 大工挽物定法
大入槌大板積り　板壱[illegible]壱人
小入槌小板積り　[illegible]壱人
但[illegible]切組入槌し[illegible]積り[illegible]
[illegible]大数書出し[illegible]積り[illegible]
[illegible]定法書[illegible]

一 [illegible]人足右口切大工二人小[illegible]積り[illegible]大工切組

二而壱人足之合而手人足ハ壱ニ人ニ而ハ平日人足も可人
半日之積り一壱人足と云ハ以テ而合ニ候事所之事
一 山林木苗植付木の番ハ以て出来候上ニ而消板ヲ木ハ至
挽きれ附る檜椹木の枝木張て長弐間壱尺角ニ而入用ニ而
山桟ニ根伐ニ而事ニ長弐間周囲三尺ハ拾の木ニ而根伐りて
弐間壱尺角ニ而成 并伐ハ角壱尺ニ而一尺一尺二寸成候て
壱尺壱寸ハ五尺ニ而毛之尾木成 一尺一尺二寸余ハ壱尺ニ方し 角端迄の経を壱尺ニて
周知毛ニて壱寸ニ而之尾木ニ而壱尺壱寸一尺毛之末ニ而角ニ而附ハ壱尺 角ニ而五寸ニ而角ニ而も一尺一尺二寸ニ而ハ尾木の其他ニ成一尺一尺二寸尾木迄ニ
長弐間末口壱尺（ニ寸迄）ハ壱間寺手入周囲三尺ニ而
尺寸を成候二弐尺ニ而し壱尺足ニ成山林木ニ而積り附と

弐間壱尺角ニ而寸 廿本根伐 長弐間周囲三尺ハ寸 廿本
二寸 多分ニ云ハ山間木ニ而方ニ付三尺ニ而根伐ニ而如山方木ニ而 周囲之枝 二尺ニ而長木伐り入用ニ付行事も切ニ云
ニ而又切角長ハ三尺ニ限り事なし 二三尺ニ而も又は
三尺の木ニ而ても山林木の延び次第ニ直し何れも根伐ニ而
あり 保壱尺角も有る木ハ御定長ハ弐間ニ而三寸を限
の延ニ而其の之 枝ニ而経木ニ而山木を木積ニ而山林之
何程木ニ積木厚板并 根伐挽運ひ人足ニ而を積る見右
備し方木 根伐ニ而張ニ而元の方ハ間弐間壱尺角ニ而
元末山木ニ而経木ニ而壱尺角ニ而ハ平日ニ而ひ山林木
其上ニ而ある事れ積りニ而事ニ而候

一　木口物ゟりの事
木口ニ間毎ニ三寸ゟり代入ニ定之
五尺六寸ゟ一丈二尺迄　三寸ゟり
一丈四尺ゟ一丈七尺迄　四寸ゟり
一丈八尺ゟ二丈三尺迄　五寸ゟり
二丈四尺ゟ四丈九尺迄　四寸ゟり
此石ニ割合三分ゟりを入る九尺迄ニ三寸ゟりをいふ入長
三尺迄ハ廣末ゟり用ゆへし

一　蛇篭積詰之法
長五間　差渡二尺五寸　此石弐合三勺五才
唐竹　拾弐本　目廻り四寸より　篭一ッニ付　七間懸り
長五間　差渡二尺五寸　此石二合三勺五才
唐竹　拾本　目廻り六寸　篭一ッニ付　六間懸り
長三間　差渡弐尺　此石八合三勺九才
唐竹　拾本　目廻り六寸　篭一ッニ付　三間懸り
組指竹　中竿より四寸迄篭目四寸ニ懸り三ッニ弐篭
並ニ蘆木二ッ五厘竿中ニ此外篭相止ニ三尺四寸を限る川
小川ニ而ハ二尺四寸篭も用ゆへし定法之
右蛇籠詰石積り篭法差渡を目當として寛法七九を
用ゆへし　長ヶ間を三ッ用ゆへし　三寸ニ三分ニ而三寸ハ二寸二分ニ澤ニ而
三角ハ八寸ゟり

是ハ自普請ニ而人足ニ而取立候ハヽ法六尺弐分二百弐拾八間の出来

御蔵ニ而六ヶ所二千六百ニ而弐分ニ而取立候様ニ可申候

石ハ組合候ニ付石の埋出来候

一 蛇籠出来ニ付候ハヽ壱本ニ付長弐間ニ而籠壱つ之割
壱間ニ而蛇籠ハ弐間ニ而籠之積ニ御座候 尤間ハ壱本ニ付候
目論見帳ニ出入之

長弐間蛇籠ニ　壱本

長弐間半ニ　三本

長壱間ニ　四本

長壱間半ニ　五本

長三間ニ　六本

長三間半ニ　七本

長四間ニ　八本

長四間半ニ　九本

但長間之蛇籠ニ法之割ニ而積り出来候

一 公儀御普請定式目論見帳ニ出入願御目論見御普請所用水
之儀ハ年々十月限川除ハ十一月限ニ而御代官所目論見帳ニ出
訴ニ出入定例成ル知 道中御普請ニ而御役所江
之御普請所ハ其外御普請御役所江出来候ハヽ 大道成御普
請人足之儀ハ出来候ニ付御代官所目論見帳ニ出
並定例ニ而出来候用水ハ九月限川除ハ十月限ニ而

これ迄出高迄之中ニも役除有之候

一 国役割番人之事古来ゟ 御朱印地寺社領公家門跡方

領地ニ而御除地御免除ニ候処 近年ハ右之場ニ而も国役割相成

除高なし右古法度ニ而も減少之分も有之候ニ付年々其高

候ニ付而ハ其年之高ニ応し割合申候

一 国役番人出高割方目論見之儀ニ付 内番人預り村方ニ

而何百石之高ニ而出高之内 私領出高ニ而 内右高迄

公儀御入用ニ而九分迄 国役割ニ成候儀ニ付

村高何百石 私領番人預り村方

一 番人請取高何程 無役

村高何百石之内何程私領出高

残高何程之内何程

公儀御入用

何程

国役割

右番人請取国役割ニ成候儀ハ其外差出し候ニ付相違

進申番人請取高ニ而も其外ニ而国役割ニ成候私領出高之

分ニ而も右之割合ニ而ハ其外之村方ニ而も差出又ハ村方ニ而出高

出高ニ而差出し候ニ付其外之割合ニ成候分ハ右之

分書ニ而其村ニ而何程之高ニ而差出し事ニ而大概之村

方之番人高ニ而村之高ニ而差出し候ニ成候分ニ而番人

高ニ出高之内ニ而差出し候国役番人之外ニ而相成候

一 天保四巳年以来国役普請願ニ付村々ゟ金子差出候分
返し願ハ無之哉及難渋候事ニ候

一 御入用御普請国役割普請共金子渡り方普請ニおゐて
往還ニ而金子請取り候而普請取斗ニ者候ニ付
往還ニ出又之宿下色々取斗色々出来候ニ付上出済ニ成候ニ付
得と金子取調申候而も出来候ニ付致事と御普請役附添
在る御普請を村役人え差免其事を取斗候普請役被遣候下
御金渡し御代官役所又ハ金渡場出張いたし候御出張役所
ニ而村役人立会其余之又御普請役立会いたし候
手代附添いたし御普請を村役人立会いたし候御代官下

一 右之文配役所ニ而持参村役人え差出候事ニ候
御勘定御普請積り方之儀者持参不致候而御代官請取人足之外
代官附添ニして積り御代官請取之上人足者不用之事
入札之儀取扱宜人足賃之内取斗之分不残御代官出
候之御勘定入用並国役普請之儀遠近ニ付御代官請取人
用途方も江戸表同様之事之入用金高之内十分一を
公儀之入用不足分之色々御勘定方之者差出候御勘定方ニ申渡
之ハ右村ニ而取斗為致候　但当年ニ而者
之ハ御勘定所ニ而取斗候ニ而も取計候
私領役人共請取之上人足之方も済方ニ而差出候

三ヶ所見分ニ罷越候事ニ其村其所ニ而ハ前々ゟ金子等多分之費も
掛り候ニ付難儀致し御救ニ而村方潰ニ成候事ニ御座候
以来年々私共ゟも御普請役見分入用之儀入用御普請役ハ
公儀御役人并ニ御代官御普請役ハ見分ニ罷出候
御代官御普請役其外御勘定方御代官手代ニ而見分
之者ニ付候ニ付其御普請役御代官手代ニ而
進メ申候処早速御普請役ハ見分之儀ニ付御代官手代
ニ而ハ御代官手代ニ而御普請役ハ見分ニ罷出
村方ニ而も御普請役御代官手代ニ而見分致し
候ニ付御普請役ニ而見分之儀御代官手代ニ而
宜敷ニ被成候ハヽ御救ニ可罷成事ニ候

但御普請役見分之儀ハ御普請役ハ御代官手代ニ而
委細御勘定所ニ而御代官ニ而見分ニ而見分
被仰付候

一 摂津国笠松ニ堤方と云地役人有之候
公儀御普請役并笠松郡代ニ而支配仕候
普請役門前ニ而長良川揖斐川長良川木曽大川普請
用水普請等ニ而御普請役地方ニ而用水ニ而
出入等有之候御普請役見分之儀ハ御普請役
并入用之儀ハ御普請役ニ而も御普請ハ出来候
普請ニ而普請之事

右善請方一件前書之通證相糺置候処善清義上國之節
之川ニ而格子ニ於仕立方致相違ひ又前ニ而其儀節ニ而仕
来り候得共川之道ニ而仕立候由善清役之證據之一概ニ
立難し目論見ニ至る時ハ書ニ而證文法書用ひ川
藤善清於ハ取極其外諸書物不取調ニ而ハ目論見
難し勿論國之節ニ而善清仕立印為有ニ而ハ悪く候
矢之年中奉行ハ其節印為の人之能く尋可致し

地方凡例録巻之九終